

支部を盛り上げよう！

青年部長 船津 泰和

あけましておめでとうございます。

昨年11月22日(金)、第39回大阪支部青年部定期総会が、青年部新旧役員、総勢16名で開催されました。

開会に先立ち横山副委員長から「今期は自分たちで考え、勉強会や学習会を開き、やらされるのではなく、自主性を持って活動して下さい。失敗する事もあると思いますが、その経験をみんなで共有し



て自分たちの力に変えて頑張ってください」と激励をいただきました。

2023年度活動報告、会計報告、2024年度運動方針、役員体制の提案があり、全会一致で承認されました。新役員体制となり青年部全体でいろいろな活動に積極的に参加し、学習するだけでなく、全体を見て自分たちで考えて、失敗することを怖れず自分の実力にしていきたいです。特に、今期から予算を増額していただいたので、勉強会や他労組との交流など積極的に活動し、横の繋がりも大切にしていきたいと思います。

わたしたち青年部の活動は先輩方が築いてきた活動や学習する場であるので、後輩たちに繋げていくためにも青年部全体で頑張っていけないと感じました。新旧役員あいさつの後、「団結がんばろー！」で定期総会を締めました。

大阪支部を盛り上げるためにも、青年部がエネルギー高く、モチベーションを上げて、活発な活動を目指して頑張っていきます。

2024年度青年部役員体制

部 長	船津 泰和	(大阪港埠頭T)
副 部 長	稲 葉 拓 磨	(此 花 荷 役)
副 部 長	平 澤 悠 磨	(大 正 埠 頭)
事務局長	佐久原 海	(大 商)
事務局次長	津 村 拓 哉	(栃 木 協 鐵)
運営委員	山 本 光 伸	(大阪港埠頭T)
運営委員	中 野 聖 也	(大阪港埠頭T)
運営委員	鯨 江 尚 貴	(加 藤 運 輸)
運営委員	森 兼 章 博	(加 藤 運 輸)
運営委員	片 山 拓 真	(此 花 荷 役)
運営委員	佐久原 秀 大	(大 商)
運営委員	安 部 秀 紀	(栃 木 協 鐵)
青対部(執行部)	横 山 貴安基	(スミサク)

とぎれずモチモチ37がい

笑顔あふれる餅つき大会

昨年12月1日に、大阪支部主催の「海の子学園ふれあいもちつき大会」を開催しました。

子供たちと一緒に餅つきをしたり、フランクフルトを焼いたり、楽しい時間を共有しました。

もちつきの後、恒例のドッジボー

ル大会では、大変白熱しましたが、怪我なく終われて良かったです。

コロナ禍の期間を除いて、今回で37回目でした。これからも40回、50回と途切れる事なく毎年開催していきたいと思います。

(青年部長 船津 泰和)



だんけつ

第389号 2025年1月1日



発 行
大 阪 市 港 区 築 港 1 - 1 2 - 2 7
全 日 本 港 湾 労 働 組 合 関 西 地 方 大 阪 支 部
発 行 責 任 者 陣 内 恒 治



労働運動・政治運動を団結の力で乗り切ろう

執行委員長 小 林 勝 彦

新年おめでとうございます。全港湾大阪支部組合員とご家族の皆様方におかれましては、健やかに新年を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。

迎えた2025年は乙巳(きのとみ)の年です。乙(きのと)は、十干の2番目で「木」の要素を持ち、草木がしなやかに伸びる様子や横へと広がっていく意味を持ちます。また巳(み・へび)は、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルともされております。そのため乙巳(きのとみ)の年は、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく」年になると考えられます。また、新しい段階へ進む準備が整った状態を示す「乙」と「巳」の合わさる「乙巳」であることから2025年は、芽吹きが成熟し、転機を迎える時期になると言われています。

私たち大阪支部にとって昨年は、「年々高まる災害の恐ろしさ、政治家特権政治を改めて考えさせられた年」でした。年明け早々の能登半島地震、豊後水道地震、向灘地震(南海トラフ地震臨時情報発令)、能登半島豪雨など地震や大雨が各所で相次ぎました。さらには、2023年と並んで日本の観測史上最も暑い夏と言われた猛暑で苦しめられ、辰年の「竜巻や雷などの自然現象を起こす大自然の躍動」が悪い方向で当たってしまった年になってしまいました。

24春闘は、ガソリン、光熱費や生活必需品などの物価高騰に歯止めがかからない状況が続き、労働者の生活は、疲弊していく中で、「賃金」を取りに行く闘いから始まりました。結果は、中小零細企業で組織された分会が大半であることから、企業の苦しい状況を鑑みて満足とは、言えないながらも妥結となりました。また、夏、冬の一時金闘争も全体的に満足できる結果には至りませんでした。その背景には、元請けや荷主

が適正な料金を見直すどころか、トラック産業の2024問題の煽りが運送業のみならず港湾店社へも悪影響が出ていることも要因の一つだと言えます。

一方、社会情勢を見てみるとロシア、ウクライナ戦争を皮切りにイスラエルによるガザ地区攻撃など戦争や内紛が一層激しくなりつつあります。戦争危機を国民に煽り台湾有事や朝鮮敵国を理由に軍事大国を目指す岸田政権から引き継いだはずの石破政権は、キックバックと言う裏金問題で、またしても政治とカネに振り回され、挙句には衆院選最中に処分を下した候補者支部への2000万円支給問題で大敗する結果となりました。しかし、自公与党政権の過半数を阻止した野党であったが、立憲野党も過半数に届かず与党の皮を被った維新・国民がカギを握る形なり事実上、政権交代にはなりませんでした。

全日建闘生弾圧による労働組合つぶしは8年目を迎えました。この間の裁判や名高い法学者の見解を総括すれば、憲法28条を蔑ろにした事件である事は紛れもない事実であると確信しました。

それは、99.9%が有罪となる日本の刑事裁判に於いて、無罪率34%と言う数字が物語っている通り一連の事件が警察・検察によるでっち上げの事件である証拠である事は明らかです。労働組合として、この事実を見過ごせば支部がこれまでに積み重ねてきた実績が崩されかねません。労働組合として闘えなくなる。いわゆる意味が無くなるということです。

結びに、全港湾大阪支部は、組合員一人ひとりを大切に、そして互いに支え合える組織として、地域の仲間と共に平和と労働組合としての権利を守る闘いを団結の力で勝ち抜く事を再確認し、この新しい年がよい年でありますよう心から祈念して、新年のごあいさつとさせていただきます。